

子ども患者の家族に宿紹介

札幌

支援団体、きょう発足

小児がんなどの重い病気で自宅から離れた専門病院で治療を続ける患者の家族が安心して滞在できる宿泊施設をつくらうと、支援団体「北海道ファミリーハウス」(理事長、山本克郎・北海道千歳リハビリテーション学院長)が十七日、札幌に発足する。当面は、安く泊まれるアパートやホテルを家族に紹介、ゆくゆくは、独立した宿泊施設の設置を目指す。

「ファミリーハウス」は、ボランティアで運営される入院患者の家族のための滞在施設。難病の子どもを抱えた親たちの経済的な負担を軽くするとともに、精神的な支えにもなる場として、全国的に広がっている。

道内では、北海道難病セ

ンター(札幌市中央区)の宿泊施設が一泊千〜二千元で利用できるほか、室蘭市の日鋼記念病院が院内に宿泊施設を設けている。また、札幌などではベッドや冷蔵庫などを備えた部屋を日割り計算で安く提供する民間アパートや、一泊二千五百円程度で泊まれるホテルもある。

だが、患者の家族がまとまった情報を得られる窓口はなく、施設も十分とはいえないのが現状。

北海道ファミリーハウスは、アパートなどを安く提

供してくれる人と連絡を取り合い、家族に紹介するところからスタート。そうしたアパートを借り上げてファミリーハウスとして運営する方式も検討する。事務局長の松宮和男さんは「いずれは自前のファミリーハウスを設立したい」と話し、協力してくれる会員を募っている。

問い合わせは事務局(札幌市中央区北五西六、第二道通ビル六一〇号、21世紀政策研究センター内。電話・FAX 11011・242・9151)へ。